

朝日学生新聞「ニュース作文コンクール」実施報告

私塾協同組合連合会と朝日学生新聞社共催

坂田 義勝（私塾協同組合連合会理事長）

私塾協同組合連合会（東京・埼玉・神奈川・群馬・茨城）と朝日学生新聞社との共催で、今年の12月に「第1回ニュース作文コンクール」を実施しました。暮れの慌ただしい時期ではありましたが、52塾から758作品が寄せられ、第1回の開催としては予想以上の実績を得ることができました。26年の2月に東京築地の朝日学生新聞社で最終審査が行われ、小学生部門・中学生部門それぞれで最優秀賞1作品、優秀賞5作品、佳作16作品の計44作品が入賞しました。受賞者は、3月16日の朝日小学生新聞、朝日中学生ウィークリーに氏名と塾名が掲載され、後日賞状が授与されます。小学生の最優秀・優秀賞受賞者は、紙面に顔写真も紹介され、たいへんな盛り上がりを見せました。

応募した子どもたちには、各塾を通じて4週にわたり朝日学生新聞社から無料で小学生新聞と中学生ウィークリーが届けられます。子どもたちは、そのニュースの中から自分が心を動かした題材をスクラップし、そのニュースが何を伝えようとしているのか、それに対して自分はどう感じるのかをシートに綴っていきます。そして、最終的にどのニュースが自分の考えをもっとも強く発信できるか、題材の絞り込みを始めます。

現行の教育課程で全教科に共通したキーワードは「言語活動の充実」です。いわゆる読み解く力、



知識を活用する力、表現する力を総合的に伸ばしていくことが求められています。

今回の「ニュース作文コンクール」は、そんな気運の中で子どもたちが自分の考えをまとめ、それを発信する力を身につけてほしいという願いで開催いたしました。

チャレンジした子どもたちは、塾の先生方の指導のもとで大変貴重な経験をしたことと思います。ニュースのとらえ方、選んだ記事の分析や要約の仕方、さらに事実と自分の考えをどのように文章としてまとめていくか。こうした一連の流れの中で、子どもたちは学習指導要領に明記された①文章を読み解く力②思考する力③表現する力を身につけたことと思います。また同時に日々のニュースに関心の目を向けさせることにも一役買ったのではないのでしょうか。

9月に「第2回ニュース作文コンクール」を予定していますが、今後さらに輪を広げながら一人でも多くの子どもたちが応募してくれるよう尽力していきたいと思っています。



平成26年 **！結果発表！** 3月16日(日)

ニュース作文コンクール



最優秀賞1名 優秀賞5名 佳作16名 (参加758名)

朝日小学生新聞 毎日発行
月ぎめ1,720円

主催：私塾協同組合連合会・朝日新聞社

朝日中学生ウイーク 日曜日発行
月ぎめ940円



平成入26年度 ニュース作文コンクールも予定されています。